

再評価調書（再々評価）

事業名		地域総合オアシス整備事業 金岡地区			
所在地		堺市金岡			
再々評価理由		再評価後5年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	本地区は堺市の東部地域に位置するため池（5ヶ所）について、老朽化した施設の改修を行い、洪水時における決壊や溢水などによる災害を未然に防止し、地域の安全なまちづくりを行うとともに、親水性の向上や水辺環境の保全整備を行い、地域の人々に「うるおい」と「やすらぎ」を与える快適な水辺環境を創造する。 また、地震等の災害時に、ため池の水を防火用水などに活用するため防災ネットワークとしての水路整備などを行い、災害に強い地域づくりを目指す。			
	内容	ため池改修5箇所（森池、菅池、長池、堂ヶ池、寺池） 保全施設整備 1式 防災施設整備 1式			
	事業費	全体事業費：約11.4億円（約10.6億円）うち投資済事業費：約9.6億円（約3.7億円） （内訳）用地費約 - 億円（約 - 億円）（内訳）用地費約 - 億円（約 - 億円） 工事費約11.4億円（約10.6億円） 工事費約9.6億円（約3.7億円） （ ）内の数値は再評価時点のもの			
	維持管理費	地元水利組合等が維持管理するため、事業主体の大阪府による維持管理費用は発生しない。			
	上位計画	大阪府農林水産振興ビジョン(H14.3) オアシス構想(H3.6) 大阪府農空間整備基本方針(H14.7)			
	関連事業	都市計画道路南花田鳳西町線			
	経過	計画時の想定	再評価時点	現時点	分析
進捗状況	事業採択年度 H 8 事業着手年度 H 8 完成予定年度 H 13	事業採択年度 H 8 事業着手年度 H 8 完成予定年度 H 15	事業採択年度 H 8 事業着手年度 H 8 完成予定年度 H 19	・評価時に想定していた年度事業費が確保できず、4年延長した。	
	用地：- % 工事：- %	用地：- % 工事：35% 工事中 2箇所 未着手 3箇所	用地：- % 工事：84% 完了 2箇所 工事中 1箇所 未着手 2箇所		
途中段階の整備効果発現状況	改修済のため池において、決壊及び溢水被害の防止が図られている。 親水・景観等の整備を行った施設において、快適な水辺環境を府民に提供している。				
事業進捗に関する課題					

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		防災機能 ・ 被害想定区域 10.65 ha ・ 浸水想定戸数 2,081 戸 ・ 浸水想定 区域内人口 501 人	防災機能 ・ 被害想定区域 10.65 ha ・ 浸水想定戸数 2,082 戸 ・ 浸水想定 区域内人口 501 人  近隣小学校における学習活動の回数 (H12) 0回/年  防災ネットワーク水路を活用した防災訓練の (H12) H13.1 実施	防災機能 ・ 被害想定区域 10.65 ha ・ 浸水想定戸数 2,165 戸 ・ 浸水想定 区域内人口 502 人  近隣小学校における学習活動の回数 (H16) 7回/年 上記活動に、地元水利組合等も参加。  防災ネットワーク水路を活用した防災訓練の (H16) H13.1以降 毎年1月に実施。 H12～H16：5回実施	被害想定区域において、新たに住宅が建設され、浸水想定戸数が増加している。人口は横ばい。  事業を契機として、ため池をフィールドとした環境学習活動が行われている。  防災訓練の実施により、地域住民の防災意識の高揚及び地域防災力の向上が図られている
地元等の協力体制		「金岡地区オアシス推進委員会（水利組合・自治会・老人会・婦人会・地元有識者・大阪府・堺市等）を推進母体として、住民参加によるため池環境づくりを推進していくことを目指していく。	「金岡地区オアシス推進委員会」を推進母体としてコミュニティが形成され、ため池環境整備内容等について検討し、それに基づき事業を実施している。 森池の一部に新たに造成されたオアシス農園は、全ての区画（89区画）が利用されており、その管理は地元、金岡町自治連合会が管理主体となり運営されている。	「金岡地区オアシス推進委員会」を推進母体としてコミュニティが形成され、ため池環境整備内容等について検討し、それに基づき事業を実施している。 森池の一部に新たに造成されたオアシス農園は、全ての区画（89区画）が利用されており、その管理は地元、金岡町自治連合会が管理主体となり運営されている。  近隣小学校の環境学習活動において、地元水利組合等が参加し、地域住民の世代間交流の活性化が図られている。  ため池の水を活用した防災訓練の実施により、地域住民の防災意識の高揚及び地域防災力の向上が図られている。	平成19年度の事業完了に向け、引き続き地元の協力との連携により、事業推進を図る。

	計画時の想定		再評価時点での状況	現時点での状況（変更点）	分析	
		備考				
事業効果の定量的分析	費用便益分析	B / C = 8 . 1 3 便益総額 B = 5 5 . 3 億円 総費用 C = 6 . 8 億円 (総事業費 C = 9 . 1 7 億円)	具体的な便益内容 災害防止効果 維持管理節減効果 受益者 受益農家 費用便益算定の根拠 「解説 土地改良の経済効果」	B / C = 7 . 0 7 便益総額 B = 5 7 . 1 4 億円 総費用 C = 8 . 0 8 億円 (総事業費 C = 1 0 . 5 3 億円) 算出根拠 「解説 土地改良の経済効果」 便益内容 災害防止効果、維持管理節減効果、	B / C = 6 . 5 1 便益総額 B = 7 4 . 1 6 億円 総費用 C = 1 1 . 3 8 億円 算出根拠 「解説 土地改良の経済効果」 便益内容 災害防止効果、維持管理節減効果、水辺環境効果	再評価時点までは、治水上の安全性の向上を図るため池本体改修に係る効果を対象に B / C を算出した。 親水性の向上などため池の環境整備に係る水辺環境整備効果を含めて国のマニュアルにより B / C を算出した。 また、その他の指標として環境整備に伴う効果を C V M により算出した。 被害評価額の基準値が改訂され、便益が増加したことから、費用対効果が高く評価された。
	その他の指標（代替指標）				B / C = 7 . 1 2 便益総額 B = 8 1 . 1 0 億円 総費用 C = 1 1 . 3 8 億円 便益内容 災害防止効果、維持管理節減効果、水辺環境効果（C V M 調査）	
事業効果の定性的分析	安全・安心	洪水時における決壊及び溢水被害の未然防止、安全・安心な生活環境が形成される。火災発生時の防火用水や、震災時の生活用水として活用できる。多目的を災害時の防災拠点として活用できる。	受益者：地域住民・農家	同左	ため池の水を活用した防災訓練が平成 12 年度より、毎年実施され、地域住民の防災意識が高揚し、また、地域防災力の向上が図られている。	
	活力	農業用水の確保とともに施設管理の省力化が図られ、地域農業の振興に寄与する。整備された施設（遊歩道・オアシス農園等）の利用による地域住民の交流及び活性化が図られている。	受益者：農家・地域住民	同左	変更点特になし	
	快適性	水と緑豊かな水辺環境の創出により、快適な生活環境及び周辺地域資源と調和した美しい水辺景観が形成される。	受益者：地域住民・府民	同左	変更点特になし	
	その他	オアシス農園・多目的広場が造成され地域住民に提供される。ため池をフィールドとした環境学習が行える。ため池の多面的機能が保全される。	受益者：地域住民・府民	同左	変更点特になし	
自然環境等への影響と対策	寺池には絶滅が危惧される野生生物として位置づけられた「オオミクリ」（富栄養湿地に自生する多年草）の生息が確認されており、改修に伴う生息環境への影響を必要最小限とする対策を検討中。		同左	オオミクリの保全について検討し、通常での堤体改修は困難であるため、裏法面に鋼矢板打設で堤体改修を行う方向で、関係機関と協議中。		
その他特記すべき事項	前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要	(意見具申) 事業継続 (府の対応方針) 事業継続	今回評価時点の反映状況			